

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
所在地	大阪府大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	平成 22年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770801633&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 6月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会を増やし、閉じこもらないように支援している。集団での外出が苦手な方でも個別外出をし、外出先も本人や家族などに本人の行きたい場所や好きな場所を聞き取りし、外出するようにしている。 ・ボランティアなどに協力を求め、いろいろなレクリエーションや外出支援を手伝ってもらっている。ホームに来られる人が増えるということは、馴染みの関係が増えるということで定期継続してもらえるようにしてもらっている。 ・自施設だけでなく、他施設の見学を積極的に行い、良い点を見習い、取り入れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人理事長が、「自分の家族が利用したいと思える施設を作りたい」との思いで、平成17年に開設したグループホームです。思いを実践している理事長の姿勢は職員に伝わっています。「利用者・家族・地域・職員・法人の笑顔」を理念に掲げ、職員は理念を理解し実践しています。個別外出に積極的に取り組み、利用者はもちろん家族にも喜んでもらっています。地域との交流も積極的にボランティアや保育園の園児・中学生など外部からの訪問が多く、利用者の生活に潤いを与えています。管理者・職員の信頼関係、働きやすい職場環境作りへの配慮などが利用者の生活支援への職員の前向きな姿勢に繋がっています。他のグループホームとの交流も活発で、その中で学びや気づきをサービス向上につなげています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として、利用者・家族・地域・職員・法人の5つの笑顔を実現することを掲げています。地域密着型サービスとして、地域との交流を積極的に図り、地域の憩いの場となるよう連携を行っています。 ホーム独自の理念は作成していませんが、毎月フロアごとに法人理念を基にフロア目標を掲げ、実践しています。	「利用者・家族・地域・職員・法人の笑顔」を理念に掲げています。ホーム内にも掲示し、職員間で共有しています。利用者に喜んでもらうことで、「ありがとう」の言葉をいただき、それが職員の笑顔に繋がり、より利用者の笑顔のために努められるよう取り組んでいます。毎月フロアごとに目標を掲げ、実践しています。	フロアごとの目標を掲げ実践していますが、体調管理を視点においた目標が多い現状です。5つの笑顔をより視点においた目標を検討されることが期待されます。また、ホーム独自の地域密着型サービスにそった理念の検討が望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物等に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、町会に参加し、回覧板のネットワークに加入し、回覧板で得たイベント情報でイベント（ふれあい喫茶、夏まつりなど）に積極的に参加している。 地域の中学生のボランティアの受入を行っている。ホームでも作業所などの地域施設より訪問喫茶などをしている。施設イベント開催時、近くの飲食店などに開催の主旨などを説明し了解を得た上で、ポスターの掲示などの協力いただいている。	地域とは、普段の関係・顔なじみの関係作りを大切にしています。回覧板の受け渡し時の会話などから、関係作りができています。ボランティアや保育所の園児との交流、中学生の職業体験受け入れなど、外部からの訪問は、利用者の生活に潤いを与えています。作業所からの訪問喫茶も好評です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	民生委員など地域の方に見学会や介護予防の講習会を開催したいと思っているが調整はできていないが、ボランティアへのオリエンテーション時必ず、活動に関する留意事項だけでなく、認知症等、理解いただけるような情報提供を行っている。活動中も認知症について理解を深めていただけるよう、面談するなど工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議にて検討した議題についての経過報告を実施している。施設からのイベントの案内や講習会についての情報発信を実施している。また、施設での事故報告なども伝え、対策についても相談している。また会議での意見をフロア職員に周知徹底している。	運営推進会議は、町会長・家族・地域包括支援センター職員から参加を得ています。毎月発行される「ゆめ長居公園だより」で、全家族に会議への参加の呼びかけをしています。内容は、ホームの取り組みや研修、利用者の生活状況の報告を行っています。利用者の事故も全て公表することにより、家族や参加者から事故に対する理解や助言を得ることができ、更に家族とのコミュニケーションを図ることができます。欠席者への報告も行い、家族にも会議録を公表しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には区包括支援センター職員に参加して頂いている。あんしんサポート職員の訪問もあり情報を提供し、協力や連携できるよう努めている。	問題が起きた場合は、地域包括支援センターに相談できる体制となっています。区ネットワーク交流会も活発で、同業者間との連携を図り、お互いのサービス向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っている。	身体拘束ゼロ作戦宣言を職員間で共有しています。マニュアルの作成や研修で徹底しています。他ホームで事件が報道された際には、翌日のミーティングで虐待防止について再確認を行いました。職員のストレスケア研修も実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で成年後見人等の制度について研修し、個々の必要性を関係者と話し合い、成年後見人制度などを活用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前にしっかりと施設見学をしていただき、その際に法人の理念や施設の方針をしっかりと説明してから、時間をかけて対応している。入居後1ヶ月程度で面会にこられた際に相談する機会を設定している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者評価の結果を施設内に掲示し、意見をだしていただけるよう環境づくりをしている。運営推進会議ではスタッフを除いた時間をとり、話し合いをしていただいている。今年度より家族様との茶話会を行い、家族間の交流や意見などを聞く機会などを設けた。ご家族様のクレームに対しては、施設スタッフ全体で対応し予防策を講じている。</p>	<p>運営推進会議開催日には、家族だけでの話し合いの時間を作っています。今年度から家族茶話会を3カ月に1回実施することになりました。1回目には、利用者の入居に至るまでの経緯を話してもらい、職員が利用者を深く理解することができています。毎月、ホーム便りを送っています。面会の少ない家族に対しては、メールや電話で報告しています。4月から各利用者の担当職員を決め、担当者が直接家族にメッセージを送るようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしている。また個別としてはスタッフに対して、6ヶ月ごとにミーティングを業務中に行い、現在の仕事状況等についての確認を行なっている。日頃から8Sシートも活用し職員一人ひとりの「気付き」を発言できる機会を設け随時スタッフとコミュニケーションをとるようにしている。	フロア会議では職員の意見を出し合っています。8S(整理・整頓・清潔・清掃・安全・節約・躰・しぐさに関すること)シートで、職員が気づいたことの改善案を随時提出し、意見を表出しやすくなっています。意見が運営に反映されることは、職員の励みにもなっています。新人職員が利用者や業務に慣れるまで派遣職員を導入し、安心して働ける職場環境への配慮は職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人が向上心を持つことができる職場環境を整えるため、行事等の希望があれば、スタッフの人員を多く確保するなど柔軟に対応している。事前に次月の行事の予定があれば、それに対応した勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加できるように、外部研修のお知らせの掲示など、体制を整備し、施設内研修会についても月1回実施している。研修報告書については、研修ファイルを設置し常時閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワークや大阪認知症高齢者グループホーム協議会などに加入し、勉強会やネットワーク作りをしている。東住吉区内のグループホーム連絡会を発足し、活動を行っている。スタッフに対して東住吉区内などのグループホームの見学会を行ない、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。管理者同士の定期会議も実施している。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけている。その後、しっかりと時間をとりご利用者様の話を聞き、不安の解消やサービスへの要望だけでなく、今までの生活歴など出来るだけ詳しく聞取れるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけている。その後、しっかりと時間をとりご家族様の話を聞き、契約・金額面・医療面についての不安を解消していくようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であるが、すぐに入居できない場合等については、デイサービスの利用やホームヘルパー等の利用についても説明を行なっている。なお緊急でお探しの場合は他施設の紹介もしている。サービスを初めて利用される場合は利用に関する手続きを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働の意識を持ち、ご利用者様と日々を楽しみながら安心して生活していただけるよう心がけている。掃除や洗濯などを一緒に行なうことで今までされてきた生活を大切に、また共通の目的を達成していけるよう共同で生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日企画である個別外出では、しっかりとご家族様・本人から情報収集を行い、過去の外出先等を加味した上で検討している。面会にこられた際は、スタッフとご利用者様、ご家族様で少しでも話す機会をとれるよう職員にも周知徹底、ご家族様にも職員紹介をたよりなどで行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で生活されていた場合は、普段の日常で経験されていた場所（喫茶店など）に外出するなど支援を行なっている。また、馴染みの知人・友人が来てもらえるよう家族にも話をしており、家族からの了承を得て、馴染みの知人と短時間の外出の機会も設けている。	昔馴染みの友人がホームに来訪することもあります。友人と喫茶店に行き、そこでまた馴染みの人と出会うこともあります。利用者の今までの生活を大切にす支援で、その人らしい暮らしを実現させています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、常に意識してケアを行い、スタッフが関わることで良好な人間関係を保てるよう努力している。問題が発生した場合は臨機応変に座席の変更等を行ない対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス終了したご利用者様とご家族様との継続的な関わりを持つという事例は発生していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご利用者様の表情や言動等から思いや希望の把握を行うようにし、困難な場合もご家族様などに相談しながら外出やレクリエーションの参加等につなげていくようにしている。	入居時面接で本人や家族の思いや希望を聞き取っています。入居後も日常の関わりの中での気づきや発見、家族との会話の中での新しい情報等、追加情報として記録し、職員間で共有し支援に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様およびご家族様から積極的に情報収集を行なっている。毎年新しい情報を追加・更新を行なっている。ケース記録に保管し、随時確認できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後1ヶ月間は重点的に観察、見守りを行い、現時点での状況をコミュニケーション、日常生活を通じて把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の意見については、普段の会話から汲み取り、ご家族様については面会時に話をしている。その結果を月1回のケア会議で検討し、ケアプランに反映させるようにしている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎の見直しですが、状態に変化があった場合は随時見直しを行っています。実施記録やモニタリングも丁寧にできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳しく記入し、ケース記録として誰でも閲覧することができるようにしっかりと記録している。記録を元にケアプランの変更を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況の変化により随時協力医療機関以外にも受診を行なっている。家族様不在時などについては、スタッフによる受診付き添いも行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方の協力を得ながら、外出やレクリエーション(歌や昔の遊び)、アニマルセラピー、子供達とのふれあい等楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医による訪問診療を行っている。嘱託医以外の受診についても、ご利用者様の必要に応じて、ご家族様と連絡を行ない、通院介助を行っている。複数の医療機関を受診できるような環境づくりをしている。	同法人のクリニックの医師による診療が2週間に1回、訪問看護が週1回の医療面での支援体制です。利用者の希望でかかりつけ医への受診も可能です。併設デイサービスセンターに勤務する看護師の支援や、夜間の同法人クリニックの24時間体制医療支援は、家族にも安心してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関のクリニックによる定期健康診断および排泄のコントロールについても適時連絡、指示を仰いでいる。また、週1回の訪問をしてもらい、日常の健康管理をしてもらっている。また、看護師資格を持つ計画作成担当者や併設されているデイサービスの看護師にも随時状況の確認・対応をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、ご家族様と一緒に診療の方針等について説明を受けるようにしている。また定期的に病室を訪れ、看護師、ご家族様と情報の交換を行い、早期退院に向けた環境整備を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、原則として特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明している。重度のご利用者様については、随時他の施設への移動などを家族と検討して対応している。当ホームの浴室状況や食事内容に関してできること、出来ないこと（機械浴がない。ペースト食などの対応が出来ない）を家族様に伝え、基本的に要介護4になると特養への入所申込を勧めている。ホームとしては次の場所が決まるまでは、ホーム内でできることを伝え、対応することになっている。</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、家族に示し説明しています。重度化に関しての考え方は、基本的には要介護4になると特養への入所を勧めることとしています。重度になっても次の施設が決まるまではホームで支援しています。ホームでの支援の限界は、食事が摂れなくなり点滴が必要になったら医療機関へ入院という考えを入居時に家族へ説明しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員研修などで定期的に緊急時、事故発生についての対応のロールプレイングを実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回定期的に行っている。夜間の出火についての想定での避難訓練も実施している。非常用食品や水の備蓄もしている。地域の協力を得られるよう近隣の方と日頃より挨拶など行い関係作りに努めている。	年2回の避難訓練を実施し、内1回は夜間想定での訓練を行っています。火災時には、地域への協力依頼にも努めています。他市のグループホームでの火災をきっかけに、火災をださないことの確認も行いました。また、運営推進会議に消防署も参加してくれるようになりました。非常用食品や水の備蓄もしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念にあるようにご利用者の笑顔を大切に言葉かけを行っている。また入職時に「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、お一人おひとりの人格を尊重したプライバシー等損ねない言葉かけや対応の徹底に努めている。記録等については、スタッフルームにて管理しており、日中は常時施錠することで対応している。	「ゆめしぐさ」というタイトルの接遇マニュアルに沿って、プライバシー保護の研修を実施しています。プライバシーの尊重に欠ける職員の言動はなく、利用者の尊厳に配慮した対応をしています。個人情報保護に関しても規程を作り、職員の入職時に誓約書をとっています。退職後の秘密保持に関しても念を押しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと時間をかけてご利用者とコミュニケーションを行ない、ご利用者が落ち着くことができる環境になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本プログラムは整えているが、ご利用者様の起床時の状況に合わせてプログラムを変更している。外出の頻度についてもできるだけご利用者様の希望に添えるように実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様が今まで行っていた美容室に連れて行かれる方もいらっしゃるが、特にご利用者様からの指定の美容室がない場合は訪問理美容にて対応している。内容(カットやパーマなど)については本人に確認しながら行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ご利用者様の状況に合わせて出来る部分を一緒に頂く様になっている。後片付けについては、洗った食器を拭いて、食器棚にいらしていただいている。炊事場の掃除もやっていただいている。	昼食はクックチルを使っての食事作り、夕食は各フロアで隔日毎の夕食作りになっています。食事のための買い物は毎日出かけ、利用者も一緒に行かれています。週1回程度、利用者と一緒におやつ作りを楽しんでいます。食事の盛り付けや後片付けなど、利用者のできることは力を発揮してもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量および水分量を記録に残し、職員間で把握している。献立など定期的に同法人の管理栄養士に確認を依頼し、意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、夜間は義歯の方には消毒などの援助をご利用者様ごとに行っている。また、週1回歯科医・歯科衛生士による口腔内の確認や口腔ケア指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。また個々の状態に合わせて紙パンツやパット類を検討している。	トイレでの排泄を基本としており、2人介助でトイレでの排泄ケアを実施している利用者もいます。頻尿の方には、泌尿器科受診や入浴しない日の陰部洗浄など、個別の排泄ケアが実施されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のプログラムや散歩レクリエーションを通して身体を動かしていただける機会を多く設定している。食事面でもヨーグルトなどの提供を行い、便秘になりやすい方にはお腹を温めるなど予防策も講じている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様と相談した上で入浴日の設定を行なっている。その際、時間帯については当日ご利用者様の状況を見ながら声かけを行ない入浴していただいている。	週3回の入浴が基本ですが、希望があれば毎日でも入浴が可能です。入浴拒否をされた場合には、無理強いは決してせず、日や時間を変えて入浴してもらっています。ホーム内の個浴が無理な利用者には、併設のデイサービスセンターでの機械入浴も検討中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	入眠時間については、ご利用者 様のリズムで入眠していただい ている。テレビを見る方はリビ ングでゆっくりと見られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	処方箋を各ケース記録に綴るな どスタッフがいつでも閲覧でき るように整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	家事等を積極的にやっていただ けるご利用者様については、し っかり家事を生活リハビリとし てやっていただいている。趣味 については、生活歴等から外出 、散歩、レクリエーションで支 援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している	外出の希望があった場合はでき るだけ対応するようにしている。 午後にその希望のあるご利用 者様を外出して頂く様にしてい る。	ホーム前の長居公園への散歩や 買い物は日常的で、本人や家族 からの希望で、利用者のお誕生 日に外出する企画は好評を得て います。動物園やサッカー観戦 に行かれた利用者がいます。外 出支援には、ボランティアの方 々の協力をいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお持ちのご利用者様については、買い物の際にはご自身で払って頂く様にしている。現金を所持される安全性やご本人様にとっての意味については、ケース会議等で検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在、月1回の絵手紙教室での作品をご家族様に郵送するように実施している。また、ご家族様や友人の方からのハガキや手紙も読むのが難しくなられた方にもご本人の了承を得、読み聞かせをしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の状況に合わせてテーブルやソファの配置を換えたりして落ち着けるスペースになるようにしている。ベランダでは花や野菜を育てるなどの園芸も行い雰囲気作りを行っている。	広く、明るいリビングからは外の景色が見え、公園の木々の変化で季節感が味わえるようになっていきます。ソファの配置にも配慮し、くつろげる場所があります。ソファの横には週刊誌等が用意され、利用者は本を見ながらおしゃべりを楽しんでいます。ベランダ園芸で、野菜作りを行い、利用者も野菜が育っていく様子を楽しみにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファの配置を検討し、対応している。自然にご利用者様同士が座席に座っていただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様に現在使っているものを持ってきてくださるよう説明を行っている。入居後は居室内の変更については、随時ご家族様の協力を得ている。	ホームではエアコンとカーテンの設置のみで、利用者が使い慣れた家具や状態にあったベッドを入れています。お気に入りの写真や作品を飾り、その人らしい居室づくりになっています。仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っている。 トイレや居室などその方の状態に応じてわかるよう掲示をするなど工夫している。 また、脱衣場に手すりを設置し、安全に着脱できるように配慮している。		